萌木

社会福祉法人もえぎの会　広報誌
もえぎ6号

発行：　社会福祉法人
もえぎの会

発行日：2008年10月1日

目黒区健康福祉部長　　一宮瑞夫

原点は当事者

国連が1981年を国際障害者年とし、障害者の「完全参加と平等」を訴えてから既に四半世紀の時が経ちました。この間、1993年に心身障害者対策基本法が障害者基本法として改正され、翌94年にはハートビル法、2000年には交通バリアフリー法が制定されました。その後、2005年の支援費制度の導入、2006年の障害者自立支援法の制定へと続き、障害者福祉をめぐる環境は大きく変化してきました。

そうした時代背景をもって私たちの周りでは、ノーマライゼーション、バリアフリー、福祉のまちづくりといった言葉が認知され、誰もが一般的に用いるようになりました。さらに、地域生活、就労支援が重要視されるなど、障害者の自立生活や生活の質の向上を促す取り組みが進められております。障害者福祉の理念に基づく諸施策の進展は決して速い速度ではないにしても着実に歩みを進めています。しかし、すべての制度や仕組みがそうであるように、ハード面（施設・制度など）が整備されてもそれを動かすソフト面（人材・運営方法など）の充実がなければ利用者の満足や安心は得られません。

もうひとつ大切なことは、制度や仕組みの中心に障害を持つ人が当事者としてしっかり位置づけられることであると考えます。当事者が安心して暮らせる場所、相談できる場所、働ける場所が必要であり、そこでの主人公は当事者です。当事者の生活をハード、ソフトの両面からサポートすることが求められているのです。そして、それを実現する要は、利用者と行政、事業者を含む福祉専門職の連携・協力であると思います。

本区の障害福祉行政も重要案件が山積しています。来年度から向こう3年間の障害者施策を定める第二期障害福祉計画の策定作業が進んでいます。障害者自立支援法の改正動向を踏まえながら区としての計画としていかなければなりません。また、障害者施設の整備では、第六中学校跡施設は障害者就労移行支援施設を中心として、旧清水小売市場跡地は上目黒福祉工房と中央町福祉工房の統合による多機能施設として整備するための準備が進んでいます。皆様の期待に沿えるよう常に当事者の視点をもってこれらの業務を遂行してまいります。

将来の目黒区の障害者福祉のあるべき姿をイメージしながら、少しでも施策を前進させていきたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

しいの実社　学芸大学店開設にむけて

施設長　渡邊　浩成

障害福祉は、障害者自立支援法が施行されてから3年目を迎えています。依然として混沌としており、はっきりしない状況となってます。今年の4月には、給付費の単価が上がり、受け入れ可能人数定員が緩和され（定員の110%から125%へ）、施設の経営面は、少し良くなりましたが、依然厳しい状態にあります。7月には、利用者の自己負担が家族世帯から個人世帯になったことにより、利用料が減少した方も多くいます。その反面、当初の理念や考えは薄らいできているように思われます。

このような状態でも、法人経営は継続し進めていく必要があります。その為、今年度は待ちの姿勢から攻めの姿勢へ変化することを目標として進めています。

その1つとして、今年の12月にしいの実社から徒歩で7・8分の学芸大学東口商店街に木造2階建の店舗を借りることにしました。ここは、今までの事業とは異なり、自己所有でなく、賃貸物件です。家賃も発生する為、法人としては、今まで以上に厳しい運営が求められます。

1階は、しいの実社製品などを並べたショップにします。現在のしいの実社では、19時までの営業となっていますが、学芸大学店では、もう少し長い時間の営業を考えています。商店街にあるということで、現在のしいの実社より人通りも多く、帰宅する人に少しでも多く利用して頂きたいと考えています。

店の面積から現場で焼いたパンを売ることは難しく、しいの実社で焼いたパンを運び、販売することになります。

2階は、作業室として使用し、ゆったりした中で、仕事を効率良く行ってもらいたいと考えています。それに合わせて、ランチの取り方、仕事の進め方など、まだまだ検討すべきことが多くありますが、1つずつ解決し、過ごしやすい場所にしたいと思います。

福祉の商品だからではなく、美味しいから・素敵だから買っていただける商品作りをいつも心がけて、仕事に取り組んでいます。しいの実社の利用者も誇りを持ち、自信をもって行える仕事を今後とも増やしていきたいと考えています。

障害があってもなくても、お互いに支えたり、支えられたりしながら過ごしていくのが人だと思います。学芸大学に進出することにより、新しい出会い・新しい夢が広がっていくと確信しています。

期待していただいて、オープンまで、もう少しお待ちください。

しいの実祭

今年も、11月22日（土）にしいの実祭を開催させていただきます。

今年度は目黒区内の他工房に出店をしていただくなど、地域交流により力を入れたいと考えております。また、昨年に引き続き清水町会さんの模擬店や後援会のバザーもお願いしています。

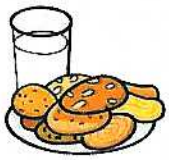
今年でお祭りも7回目。来てくださるお客様と参加する社員・ボランティアが今年は去年よりも充実していた、楽しかったと少しでも感じていただけるように準備を進めていきます。

例年喫茶コーナーでお出ししているコーヒーは、横浜にある珈琲工場さんから仕入れているフェアトレードのものです。私たちもえぎの会は後援会はじめ地域の皆様に支えられて活動をしておりますが、私たちもその恩返しをしていきたい—そんな思いもあり、フェアトレードのものを使用しています。

その他、製品販売も普段お店に並んでいないとっておきの逸品がみつかるかも・・・皆様のご来場を心よりお待ちしております。

＊フェアトレード・・・発展途上国の農村やスラムに暮らす人々に仕事の機会を提供し、自立と生活の向上を支援する公正で対等な貿易のこと。

秋の販売スケジュール



10月11日（土）合唱祭（パーシモンホールにて販売）

10月12・13日（日・月）自由が丘女神祭り販売

10月13日（月）目黒スポーツ祭り

10月19日（日）もみじまつり（祐天寺みよし通り商店街）

10月25日（土）消費生活センター販売

10月25日（土）東京学園祭　販売（クラフト・織物のみ）

10月25日（土）目黒地域福祉のつどい　10:00～15:30　中目黒GT

10月26日（日）中目黒公園祭

11月1日（土）青山学院大学OB会バザー

11月2日（日）邦楽大会（パーシモンホールにて販売）

11月2日（日）向原住区センター祭り

11月8日（土）上目黒福祉工房祭り

11月9日（日）民謡まつり（パーシモンホールにて販売）

会員インタビュー

ヤマダ自動車

目黒通りの東急バス清水車庫のお向かいに、ジオラマにありそうなカラフルな建物の「ヤマダ自動車」さんがあります。親子3代という歴史は社内に飾られた昭和27年当時の坊ちゃん刈りの男の子（現社長と専務のご兄弟）や原動機付き自転車のモノクロ写真が物語っています。今回は山田秀雄専務にお話を伺いました。

しいの実社が目黒駅近くにあった頃からご縁が始まり、平成15年に今の中央町に移転されました。現在は自動車の整備、販売、車検、板金等車のことなら何でも相談に乗ってくださいます。福祉車両のウェルキャブなどの取り扱いもあります。

障害者雇用が推進される昨今、自動車業界にそのチャンスはありますかとの問いに、修理はハードなので整備関係は難しいと思うが、製造過程であればその余地はあるのではないかというお答えでした。

日進月歩の世界なので昔のようにエンジンだけ動かせばいいという時代ではない、性能が良くなった分だけ複雑になり、機械を使いこなす技術が不可欠との事。

しいの実社のパンをよく買っていただいています。何かご注文は？とお聞きすると「うーん、中身が沢山入っていて、チーズなんかもね、こんな（パンを半分に割る手付きで！）、他人事ながら大丈夫かな、こんなに入れてと思うことがありますよ」とやさしいご心配をいただきました。お伺いした日も、今行ってきたのよ、と奥様が山切りパンを見せてくださいました。

「早く1000名位になるといいですね」と後援会員が増えることを願ってくださいました。

ホームページ：http://www.car-car-car.net

新規後援会員をご紹介ください

年会費　1口1,000円　　個人会員　1口以上、　法人会員　10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ちいただくか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座　00130-5-667751

口座名義　もえぎの会後援会

問い合わせ先　もえぎの会後援会事務局（電話：03－5724－7153）

＊恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

萌木

割烹・蕎麦處「赤坂　たけがみ」

「子どもの頃ね、高下駄を鳴らして歩く職人さんの姿を見て『かっこいいなあ』と憧れたものでしたよ。ある日ね、たまご一つがご馳走だった時代に寿司屋に連れて行ってもらって、おいしいなあ、料理人になると毎日こんなおいしいものが食べられるのか、と思ったことがきっかけでしょうか」と当時を懐かしむ眼差しでお話しくださったのは和食の大御所、神谷昌孝さん。

まるで昭和のよき時代にタイムスリップしたかのようなしつらえの日本料理とお蕎麦の赤坂たけがみでは、しいの実社の押し花の箸袋を使っていただいています。

現在、銀座、丸の内、乃木坂、赤坂のお店で、丹精こめて作る日本料理に「おいしい、ありがとう」と言ってくださるお客様の声が生きがいとおっしゃる神谷さんは、15歳のとき愛知の千歳楼で修業され、後に京都で食文化にまつわるあらゆることを研鑽され、数々の名店でご活躍されていることは皆様ご存知と思います。

今年はシーガル倶楽部チャリティー食事会に他の有名シェフの方々と共演され、日本聴導犬協会に寄付されるなど、社会貢献にも意欲的です。

世の中が何となく首をかしげたくなるような方向に動いている近年、本当の日本料理を知らない日本人が多いことや日本の食文化の荒廃を非常に案じ、憂いてもおられました。そして「今まではジャンルを越えて色々と取り入れていましたが、これからは原点に戻り、日本の古典料理を考え、日本料理の基本を守り大事にしてゆきたいと思っています。」と言われる神谷さんのお料理をこれからも折に触れて味わいたいと思うひと時でした。

赤坂店　TEL 03(3586)3636/3688

ホームページ　http://www.kamiya-m.com/

株式会社　石福

しいの実社より、目黒郵便局交差点を左折し徒歩5分、右手に(株)石福さんの石のアートのショーウィンドウが目に入ります。お地蔵さま、フクロウ、くまのぷーさん、犬、猫など様々なお洒落なデザインの石の作品が並んでいます。社長石崎さんは清水町会の林副会長さんからの紹介でしいの実社を知り、後援会に入会、今ではしいの実社のパンの大ファンでもあるとか。

加工、石貼の一級技能士の石崎社長、建築士、お墓ディレクターの美恵子夫人以下10数名の技能士、お墓ディレクター等の社員が働いています。墓石の製造以外に、暖炉のデザイン施工、エクステリア、石のアートなどを受注。愛犬のお墓、お店の前の飾り、と個々の要望に応えてくださるそうです。店内には高村光太郎氏の弟子である鈴木政夫氏の作品、イラストレーターの山口マサル氏の作品もおかれていました。

石崎夫妻は目黒法人会においても活躍なされ、その活動の一つの地域社会貢献活動で障害者の方々と接点を持てないだろうか、とお話になっていました。時間を作ってはマラソン、テニスと活動的なお二人、普段の生活の中で障害者、健常者と分け隔てなく接してくださる街の応援者だと感じました。

〒152-0004　目黒区鷹番1-1-9　電話03-3712-7986

沙羅の家

世話人　長谷茂雄

≪3年目を迎えて≫

今年の8月で沙羅の家はオープンから2周年を迎え3年目に突入しました。オープンしてからこれまでおかげさまで、順調に運営することができています。利用者の皆さんも日々マイペースに過ごしており、あまり大きな変化は見られませんが、ケアホームは生活の場ということを考えると、落ち着いて過ごすことができている証拠なのかもしれません。また、4月からは新しいスタッフとして栗原美登里が加わりました。

これからも安定した生活を支援していけるように、新しいスタッフとも協力していきながら運営していきたいと思います。

≪外出イベント@江ノ島≫

今年は3月に沙羅の家としては初めての外出イベントを行ないました。場所は、中華街や浅草、葛西臨海公園などいくつかの候補が挙がりましたが、今回は江ノ島水族館に行ってきました。水族館は春休みということもあって家族連れで大盛況でした。普段なかなか見ることのできない魚やクラゲなどの海の生き物を皆さん興味深そうに見ていました。

また、江ノ島までのルートを行きと帰りで変え、湘南モノレールや江ノ電などいろいろな乗り物を楽しみました。しかし、お天気は朝から生憎の雨・・・。乗り物からの景色は楽しむことができず、さらに、江ノ島についてからは海に近いこともあってか強風に遭い、次々に傘が壊れてしまい、皆さんびしょ濡れになって帰ってきました。

初めての外出イベントは、大変な目にあってしまいましたがそれはそれで良い思い出になったのではないでしょうか（たぶん・・・）。また機会があれば外出のイベントを企画する予定です。そのときは前日にテルテル坊主を作って、傘を持たずに出かけたいです。

発行：社会福祉法人もえぎの会

住所：目黒区目黒本町2-7-3

（法人本部）電話：03-5724-7153

e-mail：shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

編集後記

早いもので、今年ももう残すところ2か月となりました。日々の仕事に加えしいの実祭りの準備・新作業所の準備など、盛りだくさんの日々ですが目の前の利用者たちの声に耳を澄ます心の余裕をもって、進めていきたいと思います！みなさまご指導・ご協力よろしくお願いいたします。（岡田な）